主な指導事項は

● おもらしをしても，注意したり叱ったりしない。

● A子への温かいかかわりを多くし，基本的生活習慣を身につけさせる。

● A子を伸び伸びと生活させる。

＜学校では＞

① 学級担任，級友と十分に遊ぶ。

② 担任の特技である箱庭療法を継続的に行う。

③ A子のよさをみつけ，学級全体で認めていく。

④ その都度機会をみつけ，基本的生活習慣を教える。

＜家庭では＞

⑤ おだやかな家庭の雰囲気づくりをする。

⑥ 母親はA子へ優しく温かくかかわりながら，基本的生活習慣について教える。

⑦ 両親の養育態度を改善する。

※ 学校では，担任が指導援助にあたる。

7．指導援助の経過

週1回放課後，教室を利用してA子との面接を行った。母親には，家庭訪問や電話連絡を通してアプローチした。指導経過については，指導仮説①～⑦と対応しながら述べる。

(1) 5月～8月（おもらし3回）① ② ⑤ ⑥

● A子が小学3年になり，初めてのおもらしのとき，放課後一緒に下着を洗いながら話し合った。

担任：「今日は失敗しちゃったね。でも気にしなくてもいいよ。先生もよく失敗したもんだよ。」

A子：「えっ先生も……。本当はね，早く治したいんだけど……。」

担：「先生応援するよ。これから先生と一緒にお話したり，箱庭をつくったりしながら，おもらしを治す方法を考えてみようか。」

● 初めはA子の抱えている問題を表したような箱庭をつくった。(赤ちゃんから遠く離れて母親を置く。父親は左下すみに腰をかけて眠っている。)

● おもらしをした日は，一緒に家に行き状況を母親に説明した。その中で母親は，A子が幼稚園の頃，下の子どもが生まれたのであまりかまってやれなかったこと，姉がよくやってくれていたので，A子もすぐに大人になるものと思っていたことを話し，かかわりのうすかったことについて反省しはじめた。

- おもらしをしても叱らない。
- 朝食，歯みがき，洗顔をさせる。
- 姉との比較はやめ，A子の話を聴いてあげる。

以後，毎回A子は自分から箱庭をつくり，楽しそうに次から次へと話し始めた。母親とは必要あるごとに連絡をとった。

＜その結果＞

- 箱庭づくりには興味をもちはじめた。
- 休み時間，担任へも話しかけまつわりついてきた。
- おしっこに行くことを教えるようになった。
- 授業中，席を立たなくなった。
- 家庭では，笑顔がみられるようになった。

(2) 9月～10月（おもらし4回）③ ④ ⑤ ⑥

● 学習発表会練習のため，面接を一時休止した。その結果，だっこやまつわりつきが多くなった。指しゃぶりも激しくなり，授業にも集中できなくなった。

● 学習発表会では，劇の中で自分の役を見事にこなした。「やればできるじゃない。」「上手にできたよ。」と級友からもほめられた。このことでは，最後までA子につきっきりで教えてくれていたB子の存在が大きかった。

● 服装の乱れ，忘れ物が多いので母親に電話連絡した。朝，十分に心がけてやるようにしたいとの返事があった。

(3) 11月～12月（おもらし1回）①～④ ⑥ ⑦

● 再びA子との面接を開始する。箱庭をつくりながら，自分のことを話し始めた。

A：「私，お母さんにだっこされたことないんだよ。」

担：「そりゃ，さみしかったねえ。」